

共同研究奨励金グループ報告

『植民地近代性の国際比較——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験——』

人間科学部 永野善子

1. 研究の目的

本研究は、近年、内外の歴史学・思想史研究で注目されている「植民地近代性」の概念を軸にして、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験に対して新たな視角から接近することをその目的とする。

「植民地近代性」の概念は、植民地的要因が植民地時代に限定されて存在するのではなく、植民地以後にも残滓として各社会の底辺を形づくっている点に着目する。つまり、植民地時代に外部から導入され、あるいは新たに創造された諸要因が、独立後に各社会における自律的要素として自己展開し、その社会の中枢的構造をかたちづくっているという現実を直視する。したがって、この概念のもとでは、19世紀後半以降における非西欧地域の近代化過程を「西欧／アジア」、「帝国主義／民族独立運動」、「宗主国／植民地」、「支配者／被支配者」の二分法で分断するのではなく、それぞれの国々や人々が抱えてきた共通の問題や異なる課題について、歴史的・空間的座標軸の差異を超えて吟味することが求められる。この意味で、この概念は、非西欧地域で展開された植民地化や近代化の諸相に対して、より深淵な分析を与える可能性をもっている。ただし、これは新しい概念ゆえに、その概念規定が定まっているとは言い難い。

本研究は、こうした現状を踏まえて、「植民地近代性」が現れている領域として、「帝国」、「植民地主義」、「ナショナリズム」、「国民国家」、「脱植民地化」、「エスニシティ」の6つの課題を取り上げ、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの諸地

域を対象として、以下の6つを課題として共同研究を行う。そのうえで、「植民地近代性」の概念の新たな構築をめざすものである。

2. 各メンバーの研究テーマ

永野善子（人間科学部）

「アメリカ帝国とアジア」

小馬 徹（人間科学部）

「イギリス帝国とアフリカ」

後藤政子（外国語学部）

「ラテンアメリカとナショナリズム」

尹 健次（外国語学部）

「韓国および在日の思想と植民地近代性」

村井寛志（外国語学部）

「イギリス植民地と華人社会」

泉水英計（経営学部）

「沖縄の脱植民地化論」

高城 玲（経営学部）

「東南アジア社会と国民国家」

藤村是清（本学非常勤講師）

「華人社会とエスニシティ」

菅原 昭（本学非常勤講師）

「タイの国民国家形成と小農的世界」

岡田泰平（本学非常勤講師）

「アメリカ植民地とナショナリズム」

中林伸浩（松蔭横浜大学）

「植民地主義とアフリカ」

3. 本年度の研究活動について

本共同研究の参加メンバーは各自のテーマにしたがって、海外・国内における資料・聴き取り調査を実施するかたわら、以下2回の研究会を開催

した。

<第1回研究会>

日時：6月27日（土）午後4-6時

場所：本学17号館401号室

講師：岡田泰平氏（神奈川大非常勤講師）

報告論題：「植民地近代化論と公教育の制度的発展」

(注記：本報告は、共同研究グループ「植民地近代性の国際比較」の活動報告をかねる)。

<第2回研究会>

日時：11月25日（水）午後4-6時

場所：本学17号館401号室

講師：梅崎かほり氏（慶應義塾大学・神奈川大学非常勤講師）

論題：「記憶と創造—アフロ系ボリビア人の文化復興運動」

4. 2011年シンガポール・ワークショップにむけての準備

本共同研究グループは最終年次の2011年度に国立シンガポール大学人文社会科学部の協力をえて、同大学で公開ワークショップを開催し、その成果を英語で発表する準備を行っている。その準備のための会合を2009年9月25日に開催した。国立シンガポール大学人文社会科学部東南アジア研究学科の関係者が他大学におけるシンポジウム参加のため来日した。その機会を得て、同研究学科の学科長と教授のお二人と本研究グループのメンバー3名が会談した。その結果、2011年11月末に2日間の日程でワークショップを開催することで合意した。本学からは5-6名の参加を予定している。

5. 2010年度の予定

引き続きメンバー各自が海外・国内における資料・聴き取り調査を実施するかたわら、学内で数回の研究会を開催する。また年度末には箱根において合宿セミナーを開催する。海外からのゲストスピーカーを含め3人の研究者を講師として招き、植民地近代性を軸としてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験の多様な様相についての考察を深めることを目的とする。